

WB実修所カブスカウト課程 セッションの目標

	セッション	セッションの目標
第1日	§ 1 グループワーク (120分)	1. プログラムトレーニングの目的と目標を理解する。 2. 訓練ニーズを整理し、自分自身がコースで学ぶべき内容を理解する。
	§ 2 カブ隊のプログラム (180分)	1. カブスカウト活動の基本的なプログラムプロセスを再確認し、より深く認識する。 2. カブスカウト部門のプログラムの特徴を、より深く認識する。
	§ 3 プログラム企画Ⅰ (ニーズの反映) (120分)	1. プログラムプロセスにおいて、スカウト・保護者・社会・スカウト運動のニーズを活かす方法を認識する。 2. 年間計画に、カブ隊の活動に相応しい活動目標を、設定することができる。 3. テーマの意義を理解し、スカウトにとって魅力ある、期待が高まるテーマが作成できる。
	§ 4 プログラム企画Ⅱ (プログラム立案) (180分)	1. スカウト技能を活用した、カブ部門に相応しいプログラムを企画することができる。 2. プログラム委員のアイデアを活かし、より楽しい多様なプログラムを企画することができる。 3. テーマを活かし、技能・工作・ゲーム等を利用した多彩な野外活動プログラムを計画することができる。 4. 隊長として、スカウトスキルをプログラムに活用することができる。
第2日	§ 5 プログラムのアプローチ (90分)	1. カブスカウトにプログラムを魅力的で夢のあるものとして動機付けをすることができる。
	§ 6 プログラムの実施計画 (90分)	1. 月間プログラム計画を基に、隊集会及び組集会の実施計画書が適切に作成できる。
	§ 7 ふりかえり (60分)	1. プログラムプロセスを振り返り、そこでの要点を認識する。 2. プログラムの企画・立案・実施計画の内容を評価し、実際の展開に活かすことができる。
	§ 8 プログラムの準備活動 (120分)	1. プログラムの準備・展開において、団委員会をはじめとする団内外の資源を活用することができる。 2. プログラムの実施展開には、指導者間の事前の十分な打合せと準備が不可欠であることを認識する。
第3日	§ 9 プログラム実習 (300分)	1. 作成されたプログラム実施計画書に基づき、実際の活動として展開することができる。 2. 表彰や進歩記事の伝達の場合、スカウトの意欲を高めるための動機付けとして活用することができる。 3. スカウトに、夢のある魅力的な野外活動プログラムを提供することができる。
	§ 10 プログラムの評価 (120分)	1. プログラムには、達成すべき目標があることを理解し、実施後の評価ができる。 2. スカウト運動の目的やカブスカウト活動の目標の視点で、プログラムを評価することが重要であることを認識する。
	§ 11 保護者へのアプローチ (60分)	1. カブスカウト活動では、家庭での活動も重要なため、保護者との良好なコミュニケーションが不可欠であることを認識する。 2. スカウトの成長にとってスカウト運動が役立つ教育運動であることを保護者に伝えることができる。
	§ 12 プログラムの改善 (120分)	1. プログラム実施後の適切な評価を踏まえて、プログラムを改善することができる。 2. ここまでのセッションでの実習と、評価を踏まえて、次のプログラムプロセスに活かすことができる。
第4日	§ 13 第3教程に向けて (60分)	1. 実務訓練(第3教程)の意義を理解し、その具体的な取り組みの方法を計画する。 2. 隊長に必要な知識・技能・心構えを理解し、自己研鑽を進めることができる。